

## 士和田湖星空キャンプ場

青森県士和田市大学奥瀬学字樽部士和田市10  
車でお越しの方▶東北自動車道・士和田ICより  
車で約00分。八戸駅より約1時間半。七戸士和  
田駅より約1時間00分。青森駅より約20時間。

電話：0000-00-0000

FAX：0000-00-0000

E-mail：xxxxxxx@xmail.ocm

HP：http://www.xxxxx.com

▶流れたあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものがほんとは何かご承知ですか先生は、大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところを指しながら、みんなに問いをかけました。



の小さな星に見えるのです。ジョバンニさんそうでしょう」  
ジョバンニはまっ赤になってうなずきました。けれどもいつかジョバンニの眼のなかには涙がいっぱいになりました。そうだ僕は知っていたのだ、もちろんカムパネラも知っている、それはいつかカムパネラのお父さんの博士のうちでカムパネラといっしょに読んだ雑誌のなかにあったのだ。それどころでなくカムパネラは、その雑誌を読むと、すぐお父さんの書斎から大きな本をもつてきて、ぎんがというところをひろげ、まっ黒な頁いっばいに白に点々のある美しい写真を二人でいつまでも見たのでした。それをカムパネラが忘れるはずもなかったのに、すぐに返事をしなかったのは、このごろぼくが、朝にも午後にも仕事がつらく、学校に出てもうみんなともはきはき遊ばず、カムパネラともあんまり物を言わないようになったので、カムパネラがそれを知ってぎのどくがってわざと返事をしなかったのだ、そう考えるとたまらないほど、じぶんもカムパネラもあわねなような気がするのです。先生はまた言いました。  
「ですからもしもこの天の川がほんとうに川だと考えるなら、その一つ一つの小さな星はみんなその川のその砂や砂利の粒にもあたるわけです。またこれを巨きな乳の流れと考えるなら、もった天の川とよく似ています。つまりその星はみな、乳のなかにまるで細かにうかんでいる脂油の球に

もあたるのです。そんなら何がその川の水にあたるかと言いますと、それは真空という光のある速さで伝わるもので、太陽や地球もやつぱりそのなかに浮かんでいるのです。つまりは私どもも天の川の水のなかに棲んでいるわけです。そしてその天の川の水のなから四方を見ると、ちょうど水が深いほど青く見えるように、天の川の底の深く遠いところほど星がたくさん集まって見え、したがって白くぼんやり見えるのです。この模型をごらん下さい」先生は中にくさん光る砂のつぶのはいった大きな面の凸レンズを指しました。

## 光る粒すなわち星

「天の川の形はちょうどこんなのです。このいちいちの光るつぶがみんな私どもの太陽と同じようにじぶんで光っている星だと考えます。私どもの太陽がこのほぼ中へろにあつて地球がそのすぐ近くにあるとします。みなさんは夜にこのまん中に立つてこのレンズの中を見まわすとしてごらん下さい。こつちの方はレンズが薄いのでわずかの光る粒すなわち星しか見えないでしょう。こつちやこつちの方はガラスが厚いので、光る粒すなわち星がたくさん見えその遠いのはぼつと白く見えるという、これがつまり今日の銀河の説なのです。そんならこのレンズの大きさがどれくらいあるか、またその中のさまざまの星についてはもう時間ですから、この次の理科の時間に



ジョバンニが学校の門を出るとき、同じ組の七、八人は家へ帰らずカムパネラをまん中にして校庭の隅の桜の木のとこに集まっていた。こしらえて川へ流す烏瓜を取りに行く相談らしかったのです。元気に手をあげたカムパネラが、やはりもしも立ち上がったままやはり答えができませんでした。



## 空と湖

## のキャンプ場

## 士和田湖星空キャンプ場

## 空と湖と星空と焚き火と

「ではみなさんは、そういうふう川だと言われたり、乳の流れたあとだと言われたりしていた、このぼんやりと白いものがほんとは何かご承知ですか」先生は、黒板につるした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなどころを指しながら、みんなに問いをかけました。  
カムパネラが手をあげました。それから四、五人手をあげました。ジョバンニも手をあげようとして、急いでそのままやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのですが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちです。ところが先生は早くもそれを見つけたのでした。  
「ジョバンニさん。あなたはわかつているでしょう」ジョバンニは勢いよく立ちあ

がりましたが、立ってみるともうはつきりとそれを答えることができないのでした。ザネリが前の席からふりかえって、ジョバンニを見てくすくすわらいました。ジョバンニはもうどきまぎしてまっ赤になってしまいました。先生がまた言いました。「大きな望遠鏡で銀河をよく調べると銀河はだいたい何でしょう」やつぱり星だとジョバンニは思いましたが、こんどもすぐに答えることができませんでした。先生はしばらく困ったようすでしたが、眼をカムパネラの方へ向けて、「ではカムパネラさん」と名指しました。するとあんなに元気に手をあげたカムパネラが、やはりもしも立ち上がったままやはり答えができませんでした。  
先生は意外なようにしばらくじつとカムパネラを見ていましたが、急いで、「では、よし」と言いながら、自分で星図を指しました。「このぼんやりと白い銀河を太

お話します。では今日はその銀河のお祭りなので、みなさんは外へでてよくそらをごらん下さい。ではここまでです。本やノートをおししまい下さい」  
そして教室じゅうはしばらく机の蓋をあけたりしめたり本を重ねたりする音がいっぱいでしたが、まもなくみんなはきちんと立って礼をすると教室を出ました。  
ジョバンニが学校の門を出るとき、同じ組の七、八人は家へ帰らずカムパネラを